

# JAMの主張

## かく闘うⅢ

### 闘いはここから、闘いはいまから！

【機関紙JAM・2022年3月25日発行 第278号】

今から5年前、国際NGO団体：オックスファムは、「世界の裕福な上位8人の資産保有額は、世界人口の下位半分にあたる約36億人の保有額と同額である」と公表し、世界に衝撃を与えた。

2年前には、「世界の人口の1%の超富裕層が排出する二酸化炭素の量は、下位半分の貧困層30数億人の排出量の2倍以上になる」と公表し、環境問題としても改めて注目を集めた。

その後、超富裕層は新型コロナウイルス禍による経済的な動揺をうまく乗り越え、格差はさらに拡大した。多方で、貧困層の感染率や死亡率は、富裕層に比べて非常に高くなっており、貧富の差が命の軽重にまで影響している。

国内に目を向けると積極的な金融緩和や財政出動に主軸を置いたアベノミクスにより、株式や不動産など資産価格が上昇し、「持てる者」と「持たざる者」の格差が拡大し、「K字経済」をもたらした。さらに、新型コロナウイルス禍により、非正規雇用者が職を失うなど、格差の拡大は顕著になり、労働者を取り巻く環境は一層厳しさが増している。このような状況下、2022年春闘は山場を迎え、大手を中心とした先行グループが回答を引き出した。

3月22日段階でJAM全体（1500交渉組合）の6割（984組合）を超える単組が要求を提出し、約3割（458単組）が回答を引き出し、2割弱（233単組）が妥結に至っている。

要求した単組のうち、賃金構造維持分を算出できるのは7割強（730単組）で、このうち、約9割（663単組）がベア改善額「4556円」を要求した。

回答・妥結金額は「1976円」（258単組）と前年同時期（1251円）を725円上回った。規模別では、3千人以上が「2286円」と最も高く、以下100～299人は「2177円」、1千～3千人未満は「1968円」、100人未満「1900円」が続いている。

このように2022年春闘は、大手がつくった高い相場を中小が乗り越えるべく取り組みの強化を図っている。

闘いはここから、闘いはいまから！

書記長 中井 寛哉